

皆さん読書はされますか？読書が好きな方はお気づきでしょうか？いま売れている本の多くが、語り言葉の文体になっていることを。当然、書くのと語るのでは使う脳が違うから、書き言葉と語り言葉は同じにはなり得ないのでが。

明治に言文一致の時期があったのですが、書き言葉を語り言葉に近寄せた口語文が生まれた。それと同じように、今もう1度、書き言葉が一層語り言葉に近寄せた形で言文一致の時期がきているのだと思います。その背景には電子メールの普及があるでしょうね。話し「言葉」より書き「言語」の方が先行する時代に移ってきているのです。

話は変わりますが、全世界で2億4千万部も売れたという『ハリ・ポッター』は、何故そんなに読まれたのでしょうか？また映画では『千と千尋の神隠し』が2千万人以上の観客を動員したそうです。テレビではNHKの大河ドラマ

マが延々と続いているし、時代劇の『水戸黄門』においては、現在の黄門様役が、5代目だそうですね。

これらを並べてみると、ハッキリとした共通項がある事に気付きました。それはいずれも『真つ赤な嘘』だということ。正直言つて事件の真相とか、その事実を追うのつて、大変疲れるんですよ。そこで「かいつまんで」ということになり、真つ赤な嘘から出た誠を求める傾向が出てきているようなのです。

1つ1つの事実を見るのではなく、真つ赤な嘘の中に真実を見ようとしているわけです。なかでも真面目な新聞の多くは、実は嘘から誠らしい話を創り出しているのです。恐ろしい存在とも言えますよね。特に現代は、虚から現実だと信じる傾向は強烈になつてきているのです。

人間は数百万年も前から、自分の欲望を身体の外側に延長させ、作り出してきました。道具の発明と使用、それに伴う生活環境の変化です。例えば、腕力を延長させて棍棒を、そして槍や刀を、弓矢を、銃を、ついには原爆を、といった具合にです。そして徐々に生の現実から遠ざかり、ついにこの百年程は、過激と言える

ほど虚の世界が中心になる傾向がハッキリ出てきています。虚の世界が我々を取り囲んでいるという現状を認めた上で、何かを考えなければいけなくなっています。そこで重要なのが、**人間は脳に入る事しか理解しない**という事です。

人間は知りたくない事は自主的に情報を遮断するのです。行動に影響しないものは、その人にとつて現実ではないのです。情報が入ってきているのに分つているとして遮断する。そうならない為に、ではどうすればいいのか？それは1つ1つの事実を、分る事は分る、分らない事は分らないとして自分の中に受け止めていく事が大事なのです。当たり前の事のように聞こえるかも知れませんが。

いま世界の3分の2はキリスト教・イスラム教・ユダヤ教と一元論的な考え方なのです。そういう世界に我々は生きているのだという事を知らなければならぬのです。一元論の世界は「分らないものはない。絶対の真実がある」という世界です。からね。一元論にはまると、容易に固定観念の壁に囲まれてしまう事になる。そうなると自分以外の、例え

ば宗教（信じているもの以外）を認めることが出来なくなつてしまふ。その延長線上にあるものが、戦争なのです。

その点日本は本来、八百万の神で自然宗教が基本ですから、一元論的な考え方には馴染みが薄いのです。これは日本の強みです。人間が人生を生きるというのは基本的に納得です。わたくし寛敬は、この法華経に納得させられ、感動し、そしてそれを証明する為に、日夜行学に励んでいるのであります。

私達日本人は、この21世紀は間違ひなく、世界のリーダーになつていくことだろうと確信致しております。その根本精神になるのが、この法華経をはじめ、仏教の教えなのです。これは虚の空想ではなく、学べば学ぶ程、その確信は強いものになっていきます。どうか檀信徒の皆さんにも、正しいものを見極める眼をもつて、そして正しい行動を心掛けて頂きますようにお祈り申し上げます。

合掌 副住職 谷川寛敬